



## 「必ず共にいる神」

日本聖公会婦人会 担当主教 ゼルバベル 広田 勝一

新たな年を迎えました。会長選出教区が北関東教区に移り、2年目に入っています。

戦後、日本聖公会婦人補助会の再出発の動きの中で、私たちの教区も鈴木雪氏が会長として選出され、機関誌『いずみ』も発行されました。当初はわら半紙のガリ版刷のものでした。以後毎年発行され、一昨年には100号を迎えました。保存確認ができるのは5号（1948年1月発行）からですが、この5号は、鈴木雪会長の所属する東松山聖ルカ教会で開催される、北関東教区婦人補助会第1回総会の招集案内が主な記事です。総会の計画では、「持参食糧」として「弁当2度分と米2合」とあります。正午から午後9時まで会議、宿泊は「信徒宅に分宿」、翌日は正午で解散とあります。標語は「皆一つとならん為」（ヨハネ17:21）という聖句でした。「持参食糧」の総会の詳細は分かりませんが、信仰の熱意を感じさせられます。

私は、年度初めに聖句目標を定め、その一年を過ごしています。2年前の聖句は、「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」（イザヤ書43:5 新共同訳）でした。そして今年は「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである」（出エジプト記3:12）です。イザヤ書では「恐れるな」「共にいる」の相互関係に力づけられましたが、今年は「恐れるな」ではなく「必ず」に力強さを感じます。

この個所は、原文の「キー」という接続詞の解し方で「必ず」が削除され「わたしはあなたと共にいる」と訳される場合もあります。しかしこの語は単なる接続詞でなく、強調としても用いられ、ここはやはり「必ず」を入れたいところです。文語訳の「我かならず汝とともにあるべし」も、長年多くの人々に親しまれてきました。

私たちは、この神から遣わされます。モーセのような大役はできませんが、神の小さな使者、遣わされた者として、神の使命の一部を担うことは可能です。

聖書が語る神の特徴は、民の苦しみ痛みをしっかりと見、聞き、知る神です。この神が降ってきて、民を救い出し、導きます。その神が、私たちを押し出し、派遣します。押し出す神は、共におられる神であり、私たちの派遣の背後にしっかりと立つ神です。それも、どのような状況にあっても「必ず」です。

この確信に立ち、私たち一人ひとりのこの一年の婦人会の歩みが、神に導かれ、祝福された時であるようお祈りいたします。

## ご あ い さ つ

日本聖公会婦人会会長 マリヤ 斉藤 道子

主の平和がありますように。

新しい年を迎え、皆さまお元気にお過ごしのことと存じます。役員会は、お陰様で皆さまのご理解ご協力のお支えをいただき、二年目の新年を迎えました。一年を経た今、日本聖公会婦人会を次に繋ぐための一歩として、第2回会長会に向かい、その一年後をも見据えて少しずつ準備を進めております。日々、み心になう働きができますようにと祈りつつ歩んでおります。

昨年は、秋に、大韓聖公会からお客様を招いての「第3回日本聖公会女性団体連絡協議会」に参加し、報告会の後、顔を合わせての交わりの大切さなど多くを学ぶことができました。(ニュースレター66号参照)

ACWCJの東京一日研修会は、聖書研究に聖公会神学院非常勤講師でいらっしゃる布川悦子師に「キリストに結ばれて～あなたがたはキリストにおいて満たされているのです～」(コロサイの信徒への手紙2:10)を主題に、み言葉を学びました。11月には、サイディア・フラハ報告会「絵から読み取るケニアの子どもの想い」で荒川勝巳氏がケニアの子どもたちの絵をお持ちくださり、子どもたちの状況について伺い思いを深めました。こうして、多くの良き学びの機会を与えられたことに感謝しております。

また、昨年は、北海道教区でクリストファー 永谷亮司祭、東北教区でヨハネ 吉田雅人教区主教、東京教区でヨセフ 太田信三司祭、横浜教区でサムエル 北澤洋司祭、テモテ 姜炯俊司祭、中部教区でフランシス 江夏一彰司祭、京都教区でアントニオ 出口崇司祭、モーセ 石垣進司祭、プリスカ 中尾貢美子司祭、アンデレ 江渡由直執事、大阪教区でフランチェスコ 成岡宏晃司祭、ペテロ 金山将司執事、神戸教区でオーガスチン 小林 尚明教区主教、イサク 坪井智司祭、セバスチャン 浪花朋久司祭、テモテ 遠藤洋介執事と、多くの聖職の方々が按手されました。日本聖公会婦人会として皆さまの喜びとお祝いのお気持ちを届けて参りました。これからの尊いお働きをお祈り申し上げます。


国内では、未だ多くの苦しみにある方々がたくさんおられます。こうした方々に寄り添い歩み、役員会と皆さまの思いが共有できることを願っております。改めて教区婦人会の皆さまの日々のお働きとお祈りに感謝申し上げますと共に、更なる皆さまのお祈りとご協力をお願い申し上げます。


今回のニュースレターでは、被献日献金から学びの支援をさせていただいた方々の報告を掲載させていただきました。1月初旬に申請書類を送らせていただきましたので、申請を検討される方のご参考になればと思います。被献日献金への皆さまの思いが充分に生かされ、神さまのみ心にかなったものとなりますようにお祈りいたします。



## 2017年 被献日献金活用報告

### 《神学生枠》

 聖公会神学院 1年生

あいはら たろう  
ヨハネ 相原 太郎 (中部教区) 

日本聖公会婦人会の皆さまには、これまでも国際子ども学校をはじめとし、2017年3月まで職員として関わって参りました中部教区の様々なプログラムにご支援をいただいておりますが、この度、被献日献金「神


学生枠」にて、私自身の学びのためにご支援を頂戴し、感謝と共に重責をこれまで以上に感じているところです。


今回は、聖公会神学院に入学したばかりの段階での申請でしたので、1～3年次の必修科目の教科書または参考書として指定されているもので、手元のない書籍の購入に活用させていただきました。購入した書籍は以下のとおりです。

並木浩一・荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』、大貫隆・山内真監修『新版総説新約聖書』、フスト・ゴンサレス『キリスト教史』、ポール・ブラッドショー『初期キリスト教の礼拝』、加藤博道『心を神に 礼拝への思索と実践』、チャールズ・V・ガーキン『牧会学入門』、加藤常昭『愛の手紙・説教』、ウィリモン、リシャー編『世界説教・説教学事典』。一部は次年度使用予定のものもありますが、いずれの書籍も事あるごとに手にしており、神学院での学びにとって不可欠なものとなっています。

また、日本聖公会編『日本聖公会特祷・聖餐式聖書日課A年、B年、C年』も個人用に購入させていただきました。教会の備品としてよく利用されている書籍ですが、礼拝での利用はもちろんのこと、その主日の意図・意向等を検証する際に大変便利な書籍であることを今更ながら痛感しております。


被献日献金をお献げくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。


 聖公会神学院 1年生

ヒルダ <sup>ふじた</sup> 藤田 <sup>みどり</sup> 美土里 (東京教区) 

主の平和がありますように。

被献日献金を活用させて頂き感謝いたします。神学院の授業で使用する書籍類及び、ギリシア語の聖書、今後ずっと手元で活用したい聖書神学辞典、ギリシア語小辞典を購入して頂きました。何冊も一度に購入しなければならぬ授業の書籍は、この被献日献金のお陰で大変助かりました。購入して頂いた本のリストを振り返りながら、改めてお支え頂き、祈りの内に覚えて頂くことを思い、気持ちが引き締まります。それらの本の中でも「新約聖書神学辞典」(教文館)は、旧約聖書、新約聖書どちらにも貫かれている概念、主題などの解説が書かれた辞典となっています。今後もじっくり聖書を読み進めていくときの、伴走者となってくれそうです。図解も多く、その時代の文化的感覚も味わうことができます。更に活用し、学んでまいりたいと思っております。ありがとうございます。

 聖公会神学院 1年生

マグダラのマリア <sup>しま</sup> 島 <sup>ゆうこ</sup> 優子 (九州教区) 

4月に聖公会神学院に入学し、日々の勉学や毎主日の教会実習、また夏期実習などで、瞬く間に時が過ぎ去っていきました。2017年に起こった自分の人生の大きな転換に、計り知ることのできない主のご計画をあらためて感じつつ、降臨節を過ごしております。

皆様の温かいお祈りとお支えに、心より感謝申し上げます。応援して下さいの方々と、共に学ぶ仲間がいないと、とても一人では歩んでいけない道だと感じます。いただいた被献日献金を活用し、主に今年度の授業で使用するテキストを中心に、5冊の書籍を購入させていただきました。入寮した時は空っぽだった自室の本棚に、次々と本が並んでいきます。これらの本がただの飾りではなく、きちんと自分の肉となるように、神学院で過ごす3年間は学びに集中しなければと考えています。これからも引き続きご支援下さいますよう、どうぞよろしく願いいたします。



聖公会神学院 1年生

ウィリアムズ ふじた まこと  
藤田 誠 (東京教区)

この度は、被献日献金活用申請ご承認頂きましたこと、感謝申し上げます。私は、キリスト教神学を学ぶ上で基礎となるテキストとして『オックスフォードキリスト教辞典』『キリスト教神学基本用語集』『キリスト教礼拝・礼拝学事典』『キリスト教教父事典』『論集・典礼と秘跡』『牧会学入門』『キリスト教神学入門』『旧約聖書を学ぶ人のために』以上8冊を頂きました。聖書学、教会史、礼拝学、キリスト教倫理、組織神学を学ぶ上で日々、使わせて頂いております。特に『オックスフォードキリスト教辞典』は歴史上の人物や思想についてコンパクトにまとめられています。授業の予習・復習、課題の際には重宝しております。

神学校での学びでは主イエスの十字架を、目を逸らさずに見つめることができるのか、十字架の目の前まで歩んでゆけるのかを問われる機会が多いです。さまざまなテキストに登場するパウロ、アウグスティヌス、ルター、ボンヘッファーは皆、苦悩の只中で十字架の主イエスの前に立っていたのだと思います。なぜ、彼らは苦しみながらも十字架の前に立てたのでしょうか。テキストに記されている内容を追うと、ご復活の主イエス・キリストにすべての希望を置いていたのだと実感しました。

日本聖公会婦人会、皆様からのお祈りとご支援に感謝しつつ、私もまた、十字架の主イエスのもとへ歩んで参りたいと思います。ありがとうございました。



ウィリアムズ神学館 2年生

みやた ゆうぞう  
ルカ 宮田 裕三 (神戸教区)

#### 「学びの質の変化を楽しむ」

昨年は書籍を集めることが重要課題でした。絶版書籍をかき集め、高額な専門書を探し「とにかく手に入る」ことに注力しました。おかげさまで無事に1年間学ぶことが出来ました。2年次になり書籍入手に関しては困ることが少なくなってきました。それと共に、自らの学びのための書籍が必要になってきました。今年度はオックスフォードキリスト教辞典、現代聖書講座 3巻セットほか、学びを深めるための書籍を申請いたしました。

1年次では日々の授業を理解することに必死で、学んでいること以外の周辺部分には到底意識が向かず、必須以外の書籍を顧みることが出来ませんでした。2年次になり、気持ちの余裕が出てきたことと、授業の全体像が見えてきたことで、周辺部分の学びの必要性を感じ、中心部分の学びを補うために、上記のような書籍が必要と感じるようになりました。自らの変化に驚きつつも、学びを深めてまいりたいと思います。お支えいただき心より感謝申し上げます。



聖公会神学院 2年生


おぎわら みつる  
ヤコブ 荻原 充 (東京教区)

昨年に引き続き今年度も被献日の礼拝でお献げいただいた尊い献金を、学びの為の書籍の購入に活用させていただき、有難うございました。二度目の活用になる今回は、日頃から購入したいのだけれど、値段が高く二の足を踏んでしまうようなものをリストアップしておきましたので、その中から、関田寛雄『断片の神学』、ユルゲン・モルトマン『希望の神学』、『新共同訳旧約聖書 略解』、『福音書共観表』などを購入させていただきました。普段、神学院で学んでおられますと、果たして誰のために学んでいるのか。何のために学んでいるのかふと分からなくなることがあります。ややもすると、自分の知識を増やすだけの為に学んでいる

ような錯覚を起こします。しかしながら、多くの方のお支えがあつて、今の学びが出来ているということ。仕えるための学びをしているのだということを毎年この被献日献金を活用させていただくときに、改めて思い出させていただいております。



ウイリアムス神学館 教区派遣聴講生

ながの たくや  
バルナバ 永野 拓也 (神戸教区) 

主の平和

日本聖公会婦人会の皆様の日頃からのお祈りに感謝申し上げます。また、この度は昨年に引き続き、被献日献金のご支援していただきありがとうございます。

今回私は、*The Oxford Dictionary of the Christian Church third edition revised* を購入させていただきました。キリスト教に関する辞書類は、いくつか日本語でも出版されています。しかし聖公会の神学を学ぶ上では、必要な項目が網羅されていないのも事実です。その点で、この辞典は英国で出版されているものですので、聖公会の神学に関する項目が他のものよりも多く掲載されています。特に私は、現在アングリカニズムに興味を持っており、卒業論文もチャールズ・ゴアという英国の神学者の思想について取り組んでいるところです。したがって、今回購入させていただいた辞典は使用頻度の高い物でした。しかし、高額故に購入することができず、図書館の物を使用していました。現在はみなさんの支援による自分のものを手に入れることができましたので、心置きなく調べることができています。

また、私は今年度でウイリアムス神学館での学びを終える予定になっています。そのことを考えると、今回頂いた辞典は更に貴重な物であると感じています。何故ならば、現在は分からないことがあれば図書館を利用したり、先生方に質問することで解決できることも多いですが、今後は自分で調べる力が必要とされていくと考えるからです。したがって、これから学びを深めていく上でも、この辞典は大きな力になると思っています。このような物をご支援いただいたことに、深く感謝しています。


最後になりましたが、2年間被献日献金でのご支援をしていただきありがとうございました。それと同時に、皆様からの励ましのお言葉やお祈りでいつも支えられていることも忘れないでいたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

在 主



ウイリアムス神学館 3年生

ヒューム ウィリアム ユーワン

Hume William Ewan (大阪教区) 

主の平和。ウイリアムス神学館で学ばせて頂いております、イギリス出身ヒューム ウィリアム ユーワンと申します。この度、被献日献金を利用して、書籍を4冊購入することが出来まして、どうも有り難うございました。全て英語版の聖書の注解書で、2冊は新約聖書の注解書、1冊は旧約聖書の注解書、1冊は旧約聖書外典の注解書です。


私は神学生の3年生となり、以前よりも深く聖書を勉強しています。聖書の積義をするために、ギリシャ語やヘブライ語を理解することだけでは不十分で、高いレベルの注解書も必要です。私は Hermemeia シリーズの注解書を、聖書の積義をするためによく使いますが Hermemeia シリーズの全冊を持ってはいません。ですから、被献日献金によって私は Hermemeia シリーズの注解書を3冊、つまり「Mark」(マルコ福音書)、「Isaiah」(イザヤ書)及び「Enoch」(エノク書)を購入しました。更に、新しい「Acts」(使徒言行録)の注解書が最近出版されたので、Hermemeia シリーズではありませんが、とても評価が高いため、4巻セットの注解書も購入しました。

私たちのキリスト教では、聖書が一番重要な本ですが、旧約・新約聖書は約2000年前に書かれた文書ですが、コイネー・ギリシャ語や聖書ヘブライ語で書かれていました。更に、旧約・新約聖書と比べるとあまり学んでいない旧約聖書外典は外典の文書によってキリスト教に対して重要です。エノク書はイエスの神性に対して重要な文書であり、アラム語とギリシャ語で書かれた断片がありますが、残った全部の原文は古代エチオピア語で書かれた文書です。ですから、現代人である私たちにとって聖書を学ぶのは様々な古代語で書かれているため理解しにくい部分があります。従って、きちんと理解するためには、更に高度な注解書は不可欠です。

申請させて頂いた書籍を全冊購入することができ、日本聖公会婦人会の皆様には深く感謝致します。本当に有り難うございました。



聖公会神学院 3年生

やまと れいこ  
マリア 大和 (小林) 玲子(中部教区) 



主の御名を賛美いたします。

被献日献金のお捧げものより、神学の学びに益となる書籍をいただきましたことを深く感謝申し上げます。いただきましたオックスフォードキリスト教辞典は、キリスト教に関する用語を説明した辞典であり、キリスト教史のみならず、聖書学、また現代までの教会の働きに関する用語が扱われており、様々な授業の予習と復習に活用させていただいています。

この度はこの辞典に加えて、キリスト教思想史、旧約聖書学に関する書籍もいただきました。今年は、聖公会神学院での最終学年です。これらの書籍は、これまでの学びを振り返り深める上で大変有益なものです。今後もずっと活用させていただくことでしょう。これまでの神学院での学びが、皆様からのお祈りのお支えによって与えられてきましたことに心より感謝し、これからの働きに備えてまいります。本当にありがとうございました。



## 《教役者枠》

えと よしなお  
 聖職候補生 アンデレ 江渡 由直 (京都教区) 

昨年4月にウィリアムス神学館での学びを終え、京都教区の桑名エピファニー教会と四日市聖アンデレ教会で奉仕をしておりますアンデレ江渡由直 (エト ヲシオ) です。2016年に引き続き今年も、皆さまからの被献日献金による学習書籍のご支援をいただきました。ありがとうございました。


神学生の時からご支援をいただきましたが、皆さまの祈りとお支えにより、7月1日には執事に按手していただきました。ことに、今年は按手式の前日に申請承認をいただき、記念となる皆様からのプレゼントになりました。あらためてお礼を申し上げます。

この1年の勤務では主日にみ言葉を伝えることに励んで参りました。そして、お体のご事情で教会にお越しいけない方々のお宅を訪問し、み言葉を分かち合い、信仰の先達からのお話をお聞かせいただきながら、まだまだ未熟さを感じる日々でした。しかし、執事に按手いただいた今は、訪問に際してはみ言葉だけでなく、教会に来たくても来られない方が待ち望んでおられ、信仰生活の中で大切にされてこられた神様の恵みをお届けすることができるようになりました。早速でしたが訪問させていただいた信徒の方から、今までに

ない笑顔をいただきました。私まで幸せと喜びを、共にいただけることに感謝しております。

終わりにになりましたが、今回の被献日献金活用のご支援では、旧約聖書を深く読み、理解し、新約聖書のみ言葉を正しく伝えるために旧約聖書五書の註解書、また次の奉仕職の準備のためにオックスフォードキリスト教辞典を購入いたしました。教会勤務の一日は、祈りで始まり、牧会現場での学び・奉仕、祈りで終わる日々で時間に追われていますが、同時に次の新しい形での奉仕に向けた学習を続けて参ります。これからは婦人会の皆様のお祈りとご指導にお応えしつつ、神様と皆様にお仕えしながら歩いて参ります。これからも、よろしくお願ひいたします。

感謝

 聖職候補生 エリザベツ 阿部 恵子 (北海道教区) 

主の平和。

降臨節に入りました。街々に流れるクリスマスソングとは、異なる意味で皆さんも教会で聖歌を歌いながら、クリスマスの準備をし、ご降誕を待っているところではないかと思ひます。

私は、被献日献金より 'King James Version 1611 TEXT Quatercentenary Edition' を頂きました。ジェームズ王欽定訳聖書 400 周年記念復刻版です。

この聖書は 1611 年、エリザベス一世の跡を継いだジェームズ王の命により、全ての国民が理解し、読めることを目指し、主として 47 名の学者達によって作られた物です。

私がこれを望んだのは、現在勤務している札幌キリスト教会が、北海道大学に隣接し、海外からの来会者も多く、今年 7 月から第 3 主日毎に「英語礼拝」を始める予定があったからです。全奉仕者は市内の司祭や英語好きの人々によって成り、pm17:00 からの英語礼拝には内外から 30~40 名が出席しています。

ジェームズ王が目指したキリスト教宣教のように、英語礼拝によってみ言葉が人々の心に沁みわたりますように。



## 《有志グループ枠》

### 駿府キリシタン遺跡を訪ねて

横浜教区 静岡聖ペテロ教会婦人会 マリヤ 八巻好江

主のみ名を賛美いたします

このたびは被献日献金活用申請を承認していただき有難うございます。おかげさまで長年一度は訪ねたいと考えていた私たちの駿府（静岡）のキリシタン遺跡を訪ね歩くことが出来ました。

7月1日（土）9時50分集合、沼津、清水、島田の方も参加して老若男女23名、出発前にお祈りをして、10時に小型貸切りバスで教会を出発。今回訪れたのは6か所すべて静岡市葵区内です。バスの中で聖歌を歌い、次に訪ねるところの説明を交代で読み上げました。

最初に訪ねたのは今川時代から続く上沓谷・長源院の山の中腹にある清水のキリシタン研究家によって発見された古い墓石で上部に太陽と雲を表し（マルコ9章で雲は神ご自身であるとされている）、空風火水地という宇宙全体を表す文字が刻まれています。

つぎに訪れたのは市街地から約6km離れた牧ヶ谷・耕雲寺の戒名のない卵頭墓石と義僧の顕彰碑。今から21年前の1996年に当教会信徒の故トマス小野田護さんが徳川家康のキリシタン弾圧を調べて「駿府キリシタンと殉教者の道」を出版され、いつかみんなでお訪ねしたいと思っていたお寺です。家康の鉄砲隊長で駿府キリシタンの中心人物だったジョアン原主水（はらもんど）らが捕えられて安倍川原で両手指を切られ、足

の腿を切られ、額に十字の焼印を焼かれて川原に放置された原主水を夜陰に紛れて自分の寺の裏山の洞窟に匿ったことで後に処刑された義僧の戒名のない墓石と、小野田さんが建てたその顕彰碑です。その裏面には「我が兄弟なるこれらのいと小さき者の一人になしたるは 即ち 我になしたるなり」マタイ伝 25—40 感謝 原主水 代 トマス M・O (小野田護さんのこと) とある。



その次に安倍川橋たもとの「駿府キリシタン殉教の碑」と首地蔵。「この附近キリシタン聖堂跡」の碑。常磐町・宝台院のジュリアおたあらが駿府城内で信拝していた「キリシタン灯籠」。城内町・カトリック静岡教会中庭の原主水の像を訪ね、お天気にも恵まれて約4時間その時代のことを祈りと共に学び恩ぶことが出来ました。いま私たちは平和のうちに神様に祈り奉仕できることに感謝です。



### 《随時申請 教区枠より》

各教区婦人会より毎年6万円を上限に申請をいただける申請枠です。2年間を最長にお使いいただけます。今期ご報告文をお寄せくださった教区を北から順番に掲載いたします。それぞれのアイデア、活動をご参考に！！



### 「信仰生活の礎～キリスト教入門」を学ぶ

北関東教区婦人会 板橋和子

北関東教区は「教区のこれからの10年を考える」をテーマに、「信徒・教役者の集い」を開催し、9月17日～18日に第8回を迎えました。講師は日本基督教団教師 関田寛雄先生、今回は入門者向けにしてくださるとの報に110名の参加者がありました。更に特筆すべきことは、教区婦人会から女性参加者には被献日献金活用から参加費一部を補助すると案内をしたため女性参加者が半数以上を占めたのです。参加者から「一歩深い視点で信仰を捉えるための気づきを与えられた」「真のクリスチャンになるために



学べた」「今後の信仰生活に活かしたい」などの感想を寄せられ、被献日献金活用申請時の目的「一人でも多くの女性が参加し、交わりを深めながら学んで今後教区を考え活動していけることを願う」が達成されたものと感謝申し上げます。

## 横浜教区

横浜教区婦人会会長 マリヤ 谷 佳子

日聖婦被献日献金<教区枠>のご承認をいただきありがとうございますございました。

横浜教区婦人会では毎年被献日に近い1月末に総会を、隔年の5月頃に大会を行なっています。大会は1泊で研修、交わりの時を持ちます。現在、横浜教区婦人会役員は私ども静岡県の婦人たちが担当しています。日聖婦被献日献金<教区枠>をもちいさせていただき是非とも静岡県内で開催をしようと計画検討いたしました。

その結果5月23日(火)から24日(水)に焼津のアンピア松風閣で開催することができ、主教様はじめ教役者、役員を含め83名の参加となりました。

静岡市内で医師をしておられる遠藤博之先生に「終末期 医者として人として」をテーマに講演をしていただき、先生のお話を通して神様から頂いた命の尊さを再確認する機会が与えられました。

主教様司式の聖餐式、ミニバザー、美しい日の出、海越しの富士山、海鮮いろいろの食事、温泉、ゆっくり流れる時間を楽しんだ1泊2日でした。

## 2017年 「被献日献金活用教区枠」 中部教区婦人会

### 1. 長野伝道区女性の集い・合同礼拝

7月1日(土) 新生礼拝堂、8教会32名が参加

午前には聖餐式 司式：丁胤植(チョンユンシク)  
司祭、説教：金善姫(キムソンヒ)司祭

説教要約：「マグダラの聖マリアの日」の聖書より、「あなたは虐げられた者の神、小さき者の助け主、弱き者の支え、見捨てられた者の守り、希望を失った者の救い主」を信じる私たちは、「和解のために奉仕する任務」を担い生きて行こうとの励ましのメッセージ

午後は愛餐会と各教会よりの参加者の紹介に続き、ハラスメント防止・対策研修会

講師：松村真理子

(中部教区ハラスメント防止・対策委員会 委員長)



長野伝道区女性の集い・合同礼拝

### 2. 愛岐伝道区婦人親睦会

6月3日(土) 愛知聖ルカ教会、7教会参加者40名、子ども7名、教役者4名参加

午前 聖餐式 司式：田中誠司祭、説教：後藤香織司祭 新しい聖歌にチャレンジ(聖歌の練習：諸岡研史さん)

午後 後藤香織司祭による「わたしたちの教会の中にあるLGBT+(性的少数者)」についてお話を伺い、多様性を尊重していくことの大切さ、豊かさについて理解を深め、神様から頂いた私たち一人ひとりの命が輝くことを祈りました。



愛岐伝道区婦人親睦会

### 3. 新潟伝道区

5つの教会の女性たちは高齢化などの事情により集うことが困難になり、他伝道区との連携をこれから強化していきたいと願い、親睦を深めるために2018年は他の伝道区から新潟の教会訪問を計画しています。

## 大阪教区婦人会

工藤 はるみ（東豊中聖ミカエル教会信徒）

大阪教区婦人会の修養会は秋の長雨の切れ間の10月18日（火）・福音記者聖ルカ日に西宮聖ペテロ教会で開かれました。出席者は147名で席上献金は「平和のためのヒロシマ通訳者グループ（HIP）」に捧げられました。前半は松岡虔一司祭の被爆体験をもとにしたお話を聞きその中で愛唱聖歌を皆で歌いました。後半は伊藤純子さんのパイプオルガン演奏をお聴きし堪能しました。

松岡司祭は長崎で育ちました。第2次世界大戦中お父様は長崎聖三一教会の牧師をしておられ、外国人の信徒も多くいて外出時には特高警察が尾行する状態であったこと、統制のため毎日夕禱を暗い中 家族で密やかにいき聖歌31番を歌ったことをお聞きし当時の様子が偲ばれました。松岡司祭が中学1年生の8月9日 中学校で穴掘りを課せられていましたが、なぜかその日は早く帰らなくてはならないという気持ちになり、爆心地にあった長崎鎮西中学校をたまたま早退したため一命を得られました。教会と牧師館は消失しお母様は7年後に43歳で、お父様はその後69歳で残留放射能の影響で急死されました。想像を絶する悲惨な体験ですが、松岡司祭の明るくユーモアのセンスのあるお人柄のためか静かな気持ちでお話を聞くことができました。この世界には説明の出来ない力が働くことがあると話され、貴重なお話を聞くことができたのは本当に感謝でした。伊藤純子さんは神戸聖ミカエル教会オルガニストであり、国内外各地のホールや教会で多くの演奏活動をされています。伊藤さんの奏楽で前奏・後奏、聖歌を歌うこともでき、素晴らしいパイプオルガン演奏を聴くことができた恵まれた贅沢なひと時も過ごせた修養会となりました。（大阪教区報第458号掲載）

## 「被献日献金（教区枠）を頂いて」

神戸教区婦人会会長（代表） 深田久美子

†主の御名を賛美します。

2017年度の被献日献金（教区枠）として6万円交付を受け、3年に一度開きます教区代表者会の費用として使わせて頂きました。

神戸教区では、婦人会組織のスリム化を計る為、2006年に総会を開いて、会則を変更しました。事務局制を設けて、事務の簡素化により、どこの婦人も教区婦人会の活動に参加出来るようになりました。

事務局役員も代表・書記・一般会計・特別会計の4名（内1～2名は神戸近隣教会会員）となり人数も少なくし、機能的になりました。

近年、婦人会会員の高齢化により、会員数も減少していますが、各教会の司祭さまのご指導で、会員数を増やした教会もみられます。中には、1名の会員で婦人会を守って下さっている教会もあります。いずれの教会でも、神様のお導きによってそれぞれが出来る範囲で婦人会活動を続けております。



## 九州教区女性の会 第35回定期総会を終えて

九州教区女性の会 佐々木綾子

九州教区女性の会は3年に1度の総会のために被献日献金を活用させていただき2017年6月8日、9日に開催しました。総会は役員、代議員、武藤主教をはじめ教役者、傍聴人合わせて65名の出席者で始められました。総会では諸報告があり議案も1つを残してすべて可決されました。否決された議案は次期役員ブロックの引継ぎが2教会と会員脱退の報告があり、ブロックの再編成を余儀なくされました。いろいろな意見が出されましたが可決には至らず次回の代議員会で決められたらと願っています。講演ではリデル・ライトホーム理事長の小笠原嘉祐氏の「老いを生きる」を聴きました。次にコアスタッフによるスライドを見ながら活動報告を聞き、私たち一人ひとりの小さな力が集まり世界につながる大きな働きがなされていることを改めてよく知ることができました。熊本地震の支援活動の報告を聞き物質的なものと同様に心のケアの大切さが重要なのだと強く感じました。分かち合いでは九州教区女性の会の存亡の危機を感じさせられました。先人の婦人たちの祈りと願いを思い出し、婦人会の良き道を歩めるようにと願っています。閉会礼拝は武藤主教の司式、説教をいただき、信施金は熊本聖三一教会に献げられました。

### 被 献 日 献 金 活 用 報 告

沖縄教区 知花 阿佐子

沖縄教区婦人会研修会は、去る10月7日「主日前夕の黙想」参加者30名、翌10月8日「テゼの祈り」には65名の参加を得て、新装なった教区主教座聖堂において開催いたしました。講師に「黙想と祈りの集い」世話人代表、東京教区植松功先生をむかえ、参加した会員からは、「感動・感謝の思いを強くした」「勇気もらった」「大きな恵みに気づき、頑張ろうと思う」など大きな反響があり、素晴らしい学びとなりました。

植松先生のソフトな語りと、素朴な短い歌詞を繰り返し歌う「テゼの祈り」は、み言葉の力がゆったりと染み透り、続いて沈黙の中で、主への思いが広がっていく。日頃、日常の諸々に埋没しがちな中で、主は私たちの弱さ、貧しさをありのままに受け入れ、無条件の愛をもって見守って下さっていることをあらためて強く心にとめた時でした。

植松先生は、「祈りはシンプルながらも、その人となりの方法によって、日常の中で実践し続けること」「み言葉を通して主が私たちに語られていることに耳を傾ける。たとえささやかなことに見えても、まずは行動することの重要性」についてメッセージを語ってくださいました。そして、行動し福音を広めていくうえで大切なことは、私たちにできる身近なことから始めること、という助言は励ましとなりました。「目の前の隣

人に寄り添う。そばにいただけでいい」「隣人の前で語る言葉は少なくとも、日々の生活の中で、テゼの祈りをもって周りの友人知人を憶え、祈り続けること、会いに行くこと、または手紙等をしたためること」、などできることから始めることを提唱されました。

この研修会は、参加者一人ひとりの信仰を励ますものとなりました。主の御用のため、主の大いなるご計画の前進のため、福音を伝えていかなければとの思いが沸き上がり、それぞれの置かれた立場で、自分らしく小さな一歩を踏み出すエールをもらった研修会となりました。



## お知らせ

### 《被献日献金申請》

2018年度の被献日献金申請の締め切りは、

「有志グループ・聖職候補生枠」は3月31日です。

「神学生枠」は4月30日です。

「教区婦人会枠」は随時です。

締め切り日に日聖婦へ届くように申請をお願いいたします。

今号のニューズレターは各々の活動報告特集になりました。ぜひ参考にさせていただいて、皆さまの学びに役立ててください。

申請には《被献日申請案内》(表紙:ピンク)をご一読ください。

今年度からPDFファイルでの送信も受付可能です。



### 《会 長 会》



第25回(定期)総会後の第2回会長会は、北関東教区 大宮聖愛教会に於いて2018年6月11日(月)~12日(火)の日程で開催されます。

JR東日本の新幹線6路線、在来線7路線が走る大宮駅西口から徒歩5分の教会を会場に、会長会を開催いたします。全国からの代表者の方々を“鶯のからまる教会”で日聖婦役員一同お待ちしております。

今から安価(安全)での交通ルートをご準備いただけますようによりしくお願いいたします。

### 《ホームページ(HP)更新情報のおわび》

皆さまから貴重な情報をお寄せいただきながら更新ができずに申し訳ございません。

皆さまに早く情報が行き渡りますよう、引き続き考えてまいります。

日聖婦への連絡には下記アドレスにメールでお送りください。

会長 斉藤 Email; michi\_fmtwf5@hotmail.com

〔編集後記〕 日本列島への寒波襲来、観測史上最低気温、南岸低気圧の影響での大雪に雪かきにも四苦八苦する関東地区です。日本の四季も地球温暖化によって変化してきています。インフルエンザも流行中、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

今号のニューズレターは被献日献金の報告を中心に各教区からもニュースをいただきましたことを感謝いたします。「感謝箱献金」事務局発行の『ガリラヤのほitori』とともにお届けいたします。これらの活動が継続できるのも、各教会、各教区の婦人会組織があつてのことと思います。個人でも参加できる道はあるもののマタイ 18:19-20のみ言葉が浮かびました。「二人または三人がわたくしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」自分の周りのことだけではなく、日本全国の聖公会に繋がる人々のことを思い、役員会は祈りと感謝をもって歩みます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。お手元に届く時は大斎節。祈りの時を大切にいたしましょう。

